

⑨ On the Evolution of Objects in a Logic Programming Framework

F.N.Kesim, M.Sergot*(Imperial College, London,英国)

発表要旨

本発表はすでに著者の1人が提案したイベントカルキュラスの新しい枠組みを提案したものである。イベントカルキュラスは論理プログラミングの枠組みで時間や変化を表現する一般的アプローチである。ここではイベントカルキュラスを拡張することによって、オブジェクトの変化を記述することを試みる。但し、データベースの更新において破壊的な割り当てを行うのではなく、履歴を持ったデータベースを構築する。ここでの特徴であるオブジェクトの状態変化、生成、削除、クラスメンバシップ関係について具体例を上げながら述べている。これらにより、従来の関係に基づくイベントカルキュラスよりも強力な枠組みになっていることが指摘された。また、現在はデータモデルの拡張、バージョン管理への応用、スキーマの変化の扱いといった研究を行っているという報告があった。

質疑応答

質問：イベントが2つ以上のオブジェクトに関わっているときはどうなるのか？

回答：特に問題はない。

質問：時間軸上におけるオブジェクトの同一性に関してはどう扱うのか？

回答：特に推奨する方法はないが、オブジェクトの関連性に従って同定するのがよい。